

もう一度、本気で 学ぶという選択。

立正大学大学院
文学研究科

2025
年度



興味の赴くままに、深く広く研究を進められる場所です

400年を超える伝統の上に立つ立正大学に、大学院文学研究科は1951年に設立されました。都心にありながら伝統に根差した落ち着いた落ち着きのある雰囲気の中で、じっくりと研究に取り組める環境が整っています。現在は、仏教学、英米文学、社会学、史学、国文学、哲学の6つの専攻を擁していますが、6専攻で仏教学や社会学まで含めている多様さは、他の大学院ではあまり例のない特徴です。各専攻では、主だった領域をカバーできるように、教員をバランスよく配置しています。

そして、多様な専攻を揃えるだけでなく、それぞれが連携し合っているのも特徴の一つです。院生は、興味の赴くままに連携するどの科目も履修可能で、異なる分野とも情報交換をしながら自身の研究を深めていくことができます。少人数なので教員との距離が近く、疑問があればすぐに教員に相談して、スムーズに研究を進められます。

修士課程では、研究の集大成として修士論文を執筆します。学術的な研究成果を形に残す意義は大きく、この上ない充実感を味わえます。文学研究科は、これまでも社会人の院生を受け入れてきた実績があり、社会人の方のニーズに応えながら高度な学びを提供するノウハウを持っています。また、社会人院生は、私たち教員や学部から進学した若い院生にとっても刺激になる存在です。共に学ぶことができる機会を、楽しみにしています。



文学研究科 研究科長
板橋 勇仁

多様な研究分野をカバーする6つの専攻

仏教学専攻

日蓮聖人の教学や日蓮教団の歴史を学ぶ宗学コースと、仏教の思想や歴史などを学ぶ仏教学コースの2コース。院生は関心に応じて、双方の講義・演習を履修できます。

英米文学専攻

古英語から現代までの文学・語学を視野に、英文学、米文学、英語学、英語教育の各領域を広くかつ深く学びます。研究者及び専門性を要する職業にも通用する高度な能力を養います。

社会学専攻

現代社会が抱える諸問題の解決手法を導き出せる人材の養成を目指します。社会学の基礎理論から社会調査まで多様な専門科目を開設して、理論と実践を学んでいきます。

史学専攻

日本史、東洋史、西洋史、考古学の4コースがあります。各コースで専門的な研究を行うと共に、史学専攻として総合的な歴史認識の方法や見方を深く学びます。

国文学専攻

日本文学、日本語学、琉球文学の各領域に加えて、言語学や漢文学などの科目も開設。新しい社会的ニーズに応えるべく、専門的で開かれた教育・研究の実践を目指します。

哲学専攻

院生たちの多様な問題意識を、現代の哲学研究の高い水準で発展させて、独自の研究領域を拓きます。多彩な科目・演習により、広く深く研究できる指導体制を整えています。

高い次元の学びを、自分のペースで。

修士課程 長期履修生



大学院で学びたいと思ったのは、介護ヘルパーのパートや地域社会でボランティアをする中で、いろいろなトラブルを見聞きしたり経験したことがきっかけです。善意で動いている人がほとんどなのに、問題が起きるのはなぜだろうと考えたとき、「問題には原因があり、その原因を探して解決するのが学問だから、学ばないと先に進まない」という大学時代の先生の言葉を思い出しました。そこから、社会学を学ぼうと考えて、息子が卒業した立正大学の大学院を志望しました。2年で卒業できるかどうか不安だったので、

「長期履修制度」が用意されていることも選んだ理由の一つです。

入学してみると、大学院には若い人が多く、若者のエネルギーに慣れるのにしばらく時間がかかりました(笑)。社会学専攻には中国人の院生もいるので、休み時間には「異文化コミュニケーション」も楽しんでいます。

大学は国文学専攻だったため、社会調査などの実証から結論を導いていくという社会学の研究のアプローチはとても新鮮でした。私の場合、通学するのは週に1~2日程度です。授業が終わった後には、学内の図書館に立ち寄って調べものなどをすることもあります。久しぶりの勉強は面白くて、家事の合間にも資料の本を読んだりしています。

大学院での学びを社会に還元したい

自分の母と義母の介護などもあり、大学院と家庭やパートなどの両立は大変な面もあります。それでも、社会学の一つ一つの知識が自分のものになっていくことは快感です。今は、「地域社会における相互扶助体制の構築」をテーマに修士論文に取り組んでいます。

修士課程を修了したら、町内会活動やボランティアなどを通して、学んだ成果を地域社会に還元していきたいと考えています。私は、大学院に入って本当によかったです。さまざまな人の話が聞けて知見が広がったし、一度社会に出てからの学びだからこそ理解できたことも多いです。迷っている社会人の方には、チャレンジすることをおすすめしたいですね。

金谷 真弓さん

1960年生まれ。高校卒業後、公務員として働く。40代で慶應義塾大学通信教育課程を卒業。2012年に退職し、以降はパート勤務。2018年立正大学大学院文学研究科に入学。

多忙な社会人院生を支援する長期履修制度

通常の修士課程2年という期間では、時間的に単位取得が困難な方や論文作成に多くの時間がかかるという方のため制度です。修士課程の場合、最長4年まで修業年限を延長できるので、自分のペースで専門の研究に打ち

込むことができます。授業料は、通常の修業年限(修士課程2年)分の総額を、長期履修制度による修業年限(修士課程3~4年)で分割した額を1年分として納入するので、単年度での経済的な負担を軽減できます。

修士課程モデルケース

通常履修

1年 (68.6万円)

2年 (68.6万円)

長期履修

1年 (34.3万円)

2年 (34.3万円)

3年 (34.3万円)

4年 (34.3万円)

3年または4年の修業年限を申請し、授業料は分割して納入。

※修士課程の場合は、長期履修制度により修業年度を最長6年まで延長可能。

※本学出身でない方は、初年度に別途入学金(25万円)がかかります。

※モデルケースの学費は2021年度実績。

学びたい意欲に、1科目から応える。

科目等履修生



大学では美術を学びましたが、実は子供の頃から哲学や仏教に関心がありました。会社員時代は仕事一筋。でも、定年が迫って来たときに、「勉強がしたい」と思い立ち、大学院を志しました。立正大学を選んだのは、日蓮聖人や法華経を学ぶならここが最もよいと思ったからです。

自分で仏教書を読んではいましたが、自己流の勉強ではダメだと思い知らされました。修士課程では、何がなんでも2年で修了しようと勉強に没頭。修了後はもっと勉強がしたくて、先生の勧めで立正大学の法華経文化研究所の研究生になりました。さらに、博士課程にも進みましたが、母の介護や妻の病気などが重なり、勉強に集中することは難しくなっていました。

80歳を前に、新たな学び方を選択

今は「科目等履修生」として、昔から関心が強かった「哲学」の分野を学んでいます。80歳を前に「科目等履修生」という新たな選択をしましたが、学びたい科目を集中して勉強できることが気に入っています。

湯浅正彦先生が担当する「近代哲学講義」と、板橋勇仁先生の「現代哲学講義」の2科目を履修しています。板橋先生のご専門である「西田幾多郎の哲学」は、いつか本格的に学びたいと思っていたので、履修の機会を得て、迷わず板橋先生の授業を取りました。さらにもう一科目、聴講もしています。

もし大学院での学びに興味があるなら、ぜひ飛び込んでみることで。扉は常に開いています。立正大学の先生方は、みんな暖かく迎えてくれます。私自身も、まだまだ好奇心がムクムクと湧いてくるので、これから先も「科目等履修生制度」を使って学び続けていくつもりです。

近藤 信一さん

1940年生まれ。広告代理店を定年退職後、立正大学大学院文学研究科仏教学専攻に入学し、2年で修了した。2018年からは「科目等履修生」として学んでいる。

科目等履修生制度で受講できる科目例（一部）

仏教学専攻

宗学特講 原 慎定／宗教的罪を視座とした日蓮教学
仏教文化演習 秋田貴廣／仏教美術の保存修復の意義と可能性

英米文学専攻

アカデミック・ライティング演習 デンドウ・ゲーリー／An integrated English course with emphasis on academic writing.
英語学研究方法論 井川壽子／言語現象の観察と分析

社会学専攻

理論社会学講義 田陽和久／社会学は「いま」をどのように語ってきたか
環境社会学演習 堀田恭子／環境リスク社会の研究

史学専攻

西洋史演習 長谷川まゆ帆／近代フランス史料の講読
日本古代史演習 佐多芳彦／鎌倉時代の「玉葉」の講読

国文学専攻

日本文学特講 葉名尻竜一／日本近現代文学の作品をテーマで分析
日本文学特講 伊藤善隆／江戸時代の『伽婢子』の読解

哲学専攻

近代哲学演習 野矢茂樹／トマス・ネーゲル『どこでもないところからの眺め』の講読と検討
古代哲学演習 田坂さつき／死の自己決定権に関する文献の読解・討論

過去の修士課程修了生の研究テーマ

仏教学専攻

『近代における日蓮系在家仏教の展開』
『瑜伽師地論戒品の文献学的研究』

英米文学専攻

“Patriarchy in *Pride and Prejudice*: A Reflection on Gender Roles”
『英語における形容詞句（節）の文法の考察』

社会学専攻

『現代社会における「個人化」としての「異質な他者」困い込み』
『排除と包摂の社会的考察』

史学専攻

『加賀藩江戸勤番武士の研究』
『ラファエル前派とウィリアム・ホルマン・ハント』

国文学専攻

『琉球歌謡の韻律』
『万葉集の挽歌表現研究』

哲学専攻

『唯一実在の分化発展と自己の自由』
『死と存在をめぐって』

多様な知的好奇心に応えられる、各専門分野

仏教学専攻

教員インタビュー

大乘仏教が生まれた社会を多彩な資料から学んでいきます

仏教学専攻には宗学と仏教学という2つの柱があり、私は後者のうち、特に大乘仏教の中の法華経がどのような社会から出てきたのかを研究しています。授業では「仏教史学特講」を担当していて、大乘仏教が生まれたクシャン王朝時代について学んでいますが、まとまった資料は少なく、必要に応じて英語やサンスクリット語の資料も読んでいきます。仏教学をしっかりと勉強したいと考えるなら、学部3年に編入して基礎から学ぶ方法もあります。もちろん、まずは科目等履修制度を利用して、1科目から学んでいただいても構いません。自分の中にある「疑問」を真摯に追究する気持ちがあれば、私たち教員はみなさんの研究を全力でサポートします。

インド国立デリー大学 St. Stephen's College 卒業後、同大学で仏教学を学び、学位を取得。初期大乘仏教の社会背景を研究。専門分野はインド仏教史とインド仏教文化史。

高橋 堯英 教授



教員一覧

- 秋田 貴廣 教授 ★
文化財修復 (彫刻)
- 安中 尚史 教授 ★
日蓮教団史、日本仏教史
- 高橋 堯英 教授 ★
インド仏教史、インド仏教文化史
- 手島 一真 教授 ★
中国仏教社会史、中国仏教文化史
- 寺尾 英智 教授 ★
日蓮教団史、日本仏教史
- 戸田 裕久 教授 ★
インド哲学、インド思想史
- 則武 海源 教授
アジア仏教文化史
- 原 慎定 教授 ★
日蓮教学
- 三輪 是法 教授
日蓮教学

英米文学専攻

教員インタビュー

社会人の知識や経験を、英語での議論に活かしてほしい

科目名は「アカデミック・ライティング演習」ですが、授業ではリーディング、ライティング、スピーキング、リスニングという英語の4技能すべてを学びます。授業中は日本語禁止で、各自が書いてきた英語のレポートをもとに、多様なテーマについて高度なディスカッションを行います。英米文学だけでなく他の専攻の院生もいるので、たとえば哲学や仏教学など、それぞれの専門について深い知識を背景に英語で話し合えるところが、この科目ならではの面白さでしょう。社会人の履修生は、知識も人生経験も豊富で授業をより有意義にしてくれる存在です。英語は、今や誰にとっても必要なスキルなので、仕事に直接関わりがなくても学ぶ意味は必ずあります。

2004年にアナハイム大学大学院を修了し、2015年より現職。英語と日本語が堪能で、専門は英語教授法。修士課程では「アカデミック・ライティング演習」を担当。特技はギターの弾き語り。

デンドウ・ゲアリー 教授



教員一覧

- 井川 壽子 教授 ★
英語学、英語構文論、意味論 (日英語対照)
- 伊澤 高志 准教授
イギリス文学
- 大野 龍浩 教授 ★
イギリス文学・イギリス小説
- 齊藤 昇 教授 ★
19世紀アメリカ文学
- デンドウ・ゲアリー 教授
English Education (TESOL: Teaching English to Speakers of Other Languages)
- 中井 理香 准教授
イギリス文学・文化
- 増田 久美子 教授 ★
アメリカ文学

社会学専攻

教員インタビュー

日米の比較を通して、社会を多面的に考えていく面白さ

担当は「現代社会論講義」と「現代社会論演習」です。アメリカの社会学の中でも、特に家族の問題に焦点を当て、専門書を読んで徹底的に議論していきます。「離婚」や「共同親権」などアメリカの家族の問題は、15～20年以上経って日本の問題になることが多く、アメリカの問題を考えることで日本の今後が見えてきます。比較していくことで、社会を多面的にとらえられるのが社会学の面白みだと思います。さらに、それを自分の問題として引き受け、自身の関心から議論を広げることができます。結婚や転職、退職など経験を重ねる中で、もう一度自分を、そして自分と社会(他者)との関係を見つめ直したいという社会人の方におすすめの学問です。

1995年法政大学大学院博士後期課程を修了。2019年より現職。専門は社会学理論で、家族とパートナーシップの日米比較研究が主な研究フィールド。自他ともに認める「イクメン」。

鈴木 健之 教授



教員一覧

- 浅岡 隆裕 教授
メディア・コミュニケーション論、文化社会学
- 石川 由香里 教授
家族社会学、ジェンダー論
- 小浜 ふみ子 教授 ★
都市社会学、地域社会学
- 小宮 信夫 教授 ★
犯罪社会学
- 鈴木 健之 教授 ★
社会学理論、社会学史
- 武井 順介 准教授
宗教社会学
- 田嶋 和久 教授
政治社会学、社会変動論、身体論
- 徳山 喜雄 教授 ★
ジャーナリズム論、写真論
- 堀田 恭子 教授 ★
環境社会学

★博士研究指導資格あり

の教員たち。

※2023年度在職教員

史学専攻

教員インタビュー

研究に必要な古代の文献史料を読み解く力をつけていきます

「古代史演習」と「日本史特講」を担当しています。どちらも演習形式で、たとえば前者では平安時代の文献史料を使って輪番制で発表。その内容を、私が補足したり院生全員で知識を確認し合ったりしながら進めていきます。2019年度は、平安時代の貴族・藤原師輔の家訓集『九条殿遺誡』をテキストとして取り上げました。この科目を学ぶことで、古代の文献史料に強くなり研究に必要な漢文の能力も飛躍的に向上します。社会経験のある方は、学部からの院生とは違った視点からその学問に触れられるのが素晴らしい点です。まず、自分が何に興味があり、どんな方向性で研究したいのかをしっかりと考えた上で、ぜひ大学院にトライしてください。

1993年國學院大學大学院を修了。2015年より現職。有職故実や歴史図像論が専門。複数のNHK大河ドラマで儀式儀礼考証・風俗考証を担当していて、「鎌倉殿の13人」でも風俗考証を担当。

佐多 芳彦 教授



教員一覧

- 芦部 彰 准教授 ★
ドイツ近現代史
- 石山 秀和 教授 ★
日本近世史
- 岩本 篤志 教授 ★
東アジア古代史・内陸アジア史
- 佐多 芳彦 教授
日本古代史・有職故実
- 時枝 務 教授 ★
日本考古学、とくに宗教考古学、
修験道考古学
- 野沢 佳美 教授 ★
中国近世史、日中文化交流史
- 長谷川 まゆ帆 教授 ★
フランス近世史
- 真辺 美佐 准教授 ★
日本近現代史

国文学専攻

教員インタビュー

自ら能動的に学ぶことで、より深く日本文学を味わえます

授業は「日本文学演習」と「日本文学特講」を担当しています。大学院は院生それぞれが自分のテーマを持って研究する場なので、授業では何らかの形で院生の研究に資する内容を心がけています。たとえば、池に鐘が沈んでいるという「沈鐘伝説」を研究する院生がいたときには、授業でも伝承に関わる説話を取り上げました。また、日本文学専攻は時代ごとに第一線で活躍する教員がいますので、私の専門の範囲を超える場合には、他の時代や分野の教員がサポートすることも可能です。大学院では、興味のあるテーマを探究して、論文の形で残すことができます。能動的に学ぶことで、より深く日本文学を味わう体験ができると思います。

1993年早稲田大学大学院博士後期課程を退学。2018年より現職。新古今時代を中心とする、和歌文学や中世文学のエキスパート。2011年には『新古今時代の表現方法』で角川源義賞を受賞。

渡邊 裕美子 教授



教員一覧

- 伊藤 善隆 教授 ★
近世文学、俳文学
- 島村 幸一 教授 ★
琉球文学
- 白岩 広行 准教授 ★
日本語学
- 中川 諭 教授 ★
中国古典文学
- 葉名尻 竜一 教授 ★
近現代文学
- 山中 悠希 教授 ★
古代文学
- 渡邊 裕美子 教授 ★
和歌文学、中世文学

哲学専攻

教員インタビュー

根本から問い直すことを楽しめる人に向いている学問です

私の専門分野は「分析哲学」と呼ばれる現代哲学の一つの流れですが、授業では分析哲学に予備知識のない院生にも理解できるような説明を心がけています。質問もできるだけ多く投げかけて、わからないことをそのまま済ませないようにしています。哲学では、当たり前だと思っていたようなことを、改めて根本から問い直していきます。考え続ければ、目の前が開けて少しずつでも前に進める瞬間があります。それを、楽しいと思える人には向いている学問です。自由で柔軟な思考力があれば、哲学を学ぶのに年齢はまったく関係ありません。哲学者として知られるカントも、最も著名な『純粋理性批判』を書いたのは60代近くになってからでした。

1985年東京大学大学院を単位取得退学。2018年より現職、及び東大名誉教授。現代日本で最も著名な哲学者の一人で、野矢哲学を展開し著作も多数。修士課程では「近代哲学講義」を担当する。

野矢 茂樹 教授



教員一覧

- 板橋 勇仁 教授 ★
西田幾多郎、
和辻哲郎らの日本思想
- 木村 史人 准教授
実存思想
- 竹内 聖一 准教授
行為の哲学、死生学
- 武内 大 教授 ★
現象学、オカルティズム
- 田坂 さつき 教授 ★
古代ギリシア哲学、臨床哲学
- 野矢 茂樹 教授 ★
現代哲学、分析哲学
- 村上 喜良 教授 ★
キリスト教思想、生命倫理学
- 湯浅 正彦 教授 ★
西洋近現代哲学、
特にカント、フイヒテの哲学

★博士研究指導資格あり

修士課程

立正大学大学院文学研究科の修士課程では、「人間性の根本を追究する」という理念のもと、広い視野を持ち豊かな学識を身につけた人材を育てるべく、仏教学・英米文学・社会学・史学・国文学・哲学を網羅した研究体制を構築しています。また、各専攻分野で培った高い研究能力を背景に、高度な専門性を要する職業で実践的な能力を発揮できる、社会にとって有用な人材の育成を目指しています。

修士課程の2年間(例)

1年次	2年次
4月 研究テーマの設定、指導教員の決定、研究計画書の提出	4月 研究計画書の提出
2月 研究報告書の提出	7月 修士論文題目と主査・副査の正式決定
年間 研究活動(文献や資料の収集・調査・考察と発表討議など)、授業の受講と論文指導	10月 修士論文中間報告会
	1月 修士論文の提出
	2月 口頭試問などの学位審査、研究報告書の提出
	3月 修士論文要旨の提出(大学院年報に掲載)、修了式
	年間 (~12月まで) 研究活動、授業の受講と論文指導

博士課程

※本学での正式名称は博士後期課程

博士課程では、修士課程までの研究をより一層深めると共に博士論文を執筆し、研究者として自立した研究活動を行える能力を身につけることを目標とします。また、社会からのニーズに高い次元で応えることができる研究者、その他職業人の育成を目指します。

科目等履修生制度

立正大学大学院では、大学での高度かつ理論的な学習の必要性を感じている社会人に対して、1科目から大学教育を受ける機会を得られる「科目等履修生制度」を設けています。この制度では、受講可能な科目を1科目から学ぶことができ、履修成果に対しては単位も与えられます。

また、科目等履修生がその後、立正大学大学院の修士課程・博士後期課程に入学した場合、科目等履修生として修得した単位は、研究科委員会が認めた範囲内において修了単位数に認定されます。

受講資格

研究科委員会で審査の上、受講を許可された者。

受講期間

一度の申請による受講期間は最長1年間。

受講科目

文学研究科が受講を認めた科目。ただし、演習科目とゼミナールは除きます。

受講料

1科目(半期科目) 2万8000円(2023年度実績)

※本学出身者および品川区シルバー大学受講生は
2万4000円/1科目(半期科目)

出願期間

春期: 毎年3月上旬(3日間)

秋期: 毎年8月中旬(3日間)

受講制限単位

文学研究科の場合、各専攻で8単位まで受講可能です。また、認定可能な修了単位数の上限も8単位となります。

※1科目は2単位

単位認定



お問い合わせ

立正大学大学院文学研究科

03-3492-8791

letr@ris.ac.jp

大学院文学研究科・科目等履修生の情報は
文学研究科 HP でもご確認いただけます

http://letters.ris.ac.jp/faculty_graduate_school/



資料請求

立正大学入試センター

03-3492-6649

exa@ris.ac.jp

大学院願書は立正大学 HP でも
ご請求いただけます

http://www.ris.ac.jp/examination_information/contact.html



立正大学の理念と歴史

立正大学という名称は、日蓮聖人の『立正安国論』に由来します。日蓮聖人が真の仏教者として社会に貢献する生き方を実践できたのは、日本の柱・日本の眼目・日本の大船になるという若き日の誓願に基づく「三つの誓い」だったと、配流地の佐渡で著した『開目抄』に表現されています。この言葉をもとに第16代学長石橋湛山が現代風に言い換えたものが、立正大学の建学の精神です。

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願い人類に尽そう

本学に学ぶ者は、この立正精神を体得し、時代に適応した知識と技術を修め、人類社会に寄与することを目標としています。

立正大学の歴史は、日蓮宗僧侶の教蔵院日生らが、学徒の教育と日蓮宗学・仏教学の研究を目的として、1580年に下総国飯高郷（現・千葉県匝瑳市）に開設した「飯高檀林」から始まります。飯高檀林は、その後長きにわたり教育・研究機関としての重要な役割を果たしました。明治時代になると、1872年に檀林を廃して芝二本樓（現・東京都港区高輪）に立正大学開校の起点となる小教院を設立。1924年には大学令により立正大学（旧制）の設立が認可され、近代的な教育機関として一層の充実を図っていくことになりました。

第二次世界大戦の折には、空襲によって一部を除いて校舎が全焼。終戦後は、1949年に学校教育法に基づく新制大学として再発足し、仏教学部と文学部を設置しました。その翌年には経済学部を創設して社会科学系にも学部を展開し、第16代学長である石橋湛山（第55代内閣総理大臣）のもとで「総合大学」への道を歩み始めました。また1951年には、立正大学で初めての大学院として文学研究科を設置しています。



飯高檀林跡（飯高寺）



第16代学長 石橋湛山



立正大学古書資料館



立正大学品川キャンパス

立正大学大学院 文学研究科

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

TEL 03-3492-8791 FAX 03-5487-3352

E-mail: letr@ris.ac.jp URL: <http://www.ris.ac.jp/>

駅から徒歩5分で通学も快適

大崎駅、五反田駅から徒歩5分

- 大崎駅 (JR山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線)
- 五反田駅 (JR山手線、都営地下鉄浅草線)

大崎広小路駅 (東急池上線) から徒歩1分

